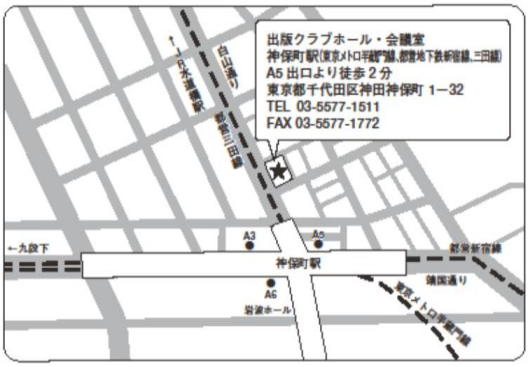
オーストラリア人捕虜の家族との交流会 2026

ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの攻撃など、世界各地で戦火が絶えません。法も正義も無視した自国第一のむき出しのエゴイズムが横行し、戦火がさらに広がる危機的状況が生じています。私たちは一体過去の戦争から何を学んだのでしょうか。
POW 研究会は 3 月 3 日、日本政府の招聘で来日するオーストラリア人捕虜の家族の方々との交流会を行います。80 年前の戦争で日本軍の捕虜だった彼らの父たちがどんな体験をし、次世代にどう受け継がれているかを知り、お互いに平和構築のために何ができるかを語り合いましょう。ぜひご参加ください！

＜日時＞2026 年 3 月 3 日（火）14:00~16:00（開場 13:40）
＜会場＞出版クラブ 4F（401・402）地下鉄神保町駅 A5 出口より徒歩 2 分
＜主催＞POW 研究会　＜参加費＞500 円（学生無料）
http://www.powresearch.jp/jp/index.html
＜お申し込み＞高田ミネ mime388@nifty.com
笹本妙子 kiki@ee.catv-yokohama.ne.jp
小宮まゆみ mayumi@am8.highway.ne.jp



ゲストの方々

① コリン・モンテフィオーレ氏（Mr. Colin Montefiore）

・元捕虜の息子。71 歳。西オーストラリア州在住。
・父アーサー・E・モンテフィオーレ（Arthur E.Montefiore）氏はジャワで捕虜となり、シンガポールから輸送船「玉鉾丸」で日本に向かう途中、長崎沖で米潜水艦に撃沈されたが、救助されて長崎市内の福岡第 14 分所に収容。この収容所は 45 年 8 月 9 日の原爆で全壊したが、彼は生き延びて故国に帰還。

② バリー・ドワイヤー氏（Mr. Barry Dwyer）

・元捕虜の息子。76 歳。ニューサウスウェールズ州在住。
・父フランシス・J・ドワイヤー（Francis J. Dwyer）氏はシンガポールで捕虜となり、チャンギ収容所を経て、泰緬鉄道の建設工事に使役された。その後、山口県山陽小野田市にあった大浜収容所（広島第9分所）に移送され、炭鉱労働に従事し、ここで終戦を迎える。

③ マイケル・ギャラハー氏（Mr. Michael Gallagher）

・全豪退役軍人会（RSL）会長。タスマニア州支部長。70 歳。タスマニア州在住。
・経営学学士取得後、1981 年に陸軍予備役に入隊し、財務顧問などの要職を歴任。
・陸軍予備役と並行して、タスマニア消防局でコーポレートサービス部長等を務め、2025 年に RSL タスマニア州支部会長に就任。